

ステージ0期からのがん検査

超早期がんリスク検査 プロテオ[®]

(有限会社マイテック)



プロテオチップ[®] (26×76×1.2mm)

検査を受けられる医療機関



さらに詳しい
情報はこちら!

日本先端医療臨床応用学会
「プロテオ検査研究部会」
<http://proteo.jscf.or.jp/>

注) 詳細については、検査を希望される医療機関にお問い合わせください。2017年7月5日現在。

日本人の死因第1位で、毎年、約37万人が亡くなるがんは、早期に発見することで死亡リスクの低減が立証されています。今回は、超早期がんリスク検査で注目される有限会社マイテックの長谷川克之さんに、現在の取り組みを伺いました。

95%を超える 早期発見の生存率

進歩し続ける医療技術は、がんを完治させます。しかし、早期発見に勝る特効薬はありません。ステージ1期で発見され、その後、適切な治療を行った場合、5年後の生存率(相対生存率)は、95%を越え、胃がんや直腸がんや乳房がんでは、およそ100%という報告もされています。ところが、ステージ4期で発見された胃がんの場合をみると、5年後の生存率は10%台にまで落ち込みます。がんで亡くなる人をゼロにするためにプロテオを世界中に広める努力をしています。

バイオチップの 特性を生かした新技術

プロテオは、バイオチップ技術です。

DNAやたんぱく質などのバイオ分子を基盤(チップ)の上に付着させ、標的となる分子や化合物などに作用させて検出します。チップ上に検出されるわずかな変化を読み取りますから、ステージ0期でも判定でき、短い時間で、がん種(がんの部位)を特定することができます。30マイクロリットルという1滴にも満たない血液で検査することができ、A(リスクが低い)・B(要観察)・C(リスクが高い)の3段階に数値化し、判定しています。

医療機関と連携した 実用がスタート

現在、全国11の医療機関で超早期がんリスク検査プロテオを受けることができ、肺がん、胃がん、大腸がん、肝臓がん、乳房がん、子宮がん、前立腺がんなどの



可視化されたチップに付着した結晶。

固形がんを対象に検査できます。初めに、医療機関に連絡し、プロテオを依頼してください。検査は、指先などから微量の血液を採取し、専門の検査機関に送られた後、検査結果報告書が医療機関に届きます。医師の説明とともに結果が報告されますが、少しでもリスクのある人は、定期的な経過観察や検査を受け、がんの早期発見に努めてください。プロテオの技術を活かし、がん以外の病気も早期発見できるよう研究を進めていきます。